

大学共同利用機関法人自然科学研究機構
経営協議会（第52回）議事要旨

1. 日 時 平成29年11月17日（金）10：45～13：25
2. 場 所 自然科学研究機構事務局会議室
3. 出席者 小森議長、高坂委員、澤岡委員、庄山委員、高橋委員、高柳委員、
豊島委員、中村委員、平野委員、結城委員、徳田委員、金子委員、
林委員、山本委員、井本委員、川合委員
(陪席者)
二宮監事、竹俣監事、核融合科学研究所 室賀副所長
(事務担当者)
植垣総務課長、高田企画連携課長、布野財務課長、宮内施設企画室長、
国立天文台 笹川事務部長、核融合科学研究所 西山管理部長、岡崎統合事
務センター 棚木センター長及び三好財務部長 他
(研究成果発表者)
古賀 信康 准教授（分子科学研究所）
4. 配付資料
 - 1 経営協議会（第51回）議事要旨（案）
 - 2 生命創成探究センター（仮称）の設置
 - 3-1 岡山天体物理観測所の廃止について
 - 3-2 国立天文台組織図
 - 3-3 京都大学大学院理学研究科と自然科学研究機構国立天文台との研究教育協
力に関する覚書
 - 3-4 大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台と国立大学法人東京工
業大学理学院系外惑星観測研究センターとの岡山188cm望遠鏡を用い
た共同研究に関する協定書（案）
 - 3-5 国立天文台 岡山天体物理観測所 配置図
 - 4 国立天文台建物の廃止について
 - 5-1 機構における役職員給与等の改定について（案）
 - 5-2 給与勧告の骨子
 - 6 大隅良典本機構基礎生物学研究所名誉教授への特別栄誉教授称号授与式
 - 7 平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果（原案）
 - 8-1 平成28年度自己点検・自己評価、外部評価について（国立天文台）
 - 8-2 平成28年度自己点検・自己評価、外部評価について（核融合科学研究所）
 - 8-3 平成28年度自己点検・自己評価、外部評価について（基礎生物学研究所）
 - 8-4 平成28年度自己点検・自己評価、外部評価について（生理学研究所）
 - 8-5 平成28年度自己点検・自己評価、外部評価について（分子科学研究所）
 - 9 大型望遠鏡TMT計画＜TMT計画の現状について＞
 - 10-1 平成28事業年度財務諸表の承認について
 - 10-2 平成28事業年度財務諸表の概要
 - 11 平成30年度概算要求額（国立大学法人運営費交付金等）
 - 12 研究大学コンソーシアムについて

13 第24回自然科学研究機構シンポジウムについて

5. 議事等

議事に先立ち、事務局から定足数及び配付資料の確認があった。

1) 前回議事要旨（案）について

前回経営協議会（第51回）議事要旨（案）（資料1）が了承された。

2) 次期国立天文台長について

小森議長から、国立天文台長選考委員会より、常田 佐久 氏（現 宇宙航空研究開発機構 理事／宇宙科学研究所 所長）を次期国立天文台長候補者（任期：平成30年4月1日～平成34年3月31日（4年））として推薦があり、役員会の議を経て決定する旨の報告があった。

3) 生命創成探究センターの設置について

井本委員から、資料3に基づき、生命創成探究センターの設置について説明があり、審議の結果、案（資料3）のとおり了承された。

（主な意見等は以下のとおり）

- 「創成」という言葉についてだが、一般的に検証することを創成と読み替えるのは難しく、大胆すぎるという印象である。
- ご指摘の点は議論となったが、様々な検討を行った結果、現在の「生命創成探究センター」という名称となった。
- 機構として強みがある部分を他機関と連携して行っている流れがある中で、生命創成探究連携班の説明に「機構内では行っていない研究を行う部門」とある点について説明をしていただきたい。
- 最近のバイオサイエンスの研究は、ひとつの装置があればできるものではなくてきており、幅広いものを揃えないといけない時代になってきている。また、装置そのものだけでなく、その装置を使いこなせる職員と常に共同研究ができる体制を構築することを想定している。
- 岡崎の3研究所とどのように連携していくのか。
- 現在の岡崎統合バイオサイエンスセンターは研究面では独立しているが、管理面などでは3研究所と一体的に行ってきている。生命創成探究センターについて、将来的にどうなるかはまだ決まっていないが、管理面については従前どおり3研究所と一体的に行うような制度設計を行っている。
- 生命創成探究センターについて、アストロバイオロジーセンターと研究領域が重複しているように見えるが、将来研究者を目指す子どもたちがわかりやすく研究内容を理解できるように仕分けていただきたい。
- 生命創成探究センターは存在する生命を研究するものであり、アストロバイオロジーセンターは生命の存在を確かめるものである。

4) 国立天文台の組織改編について

林委員から、資料3-1から資料3-5に基づき、国立天文台の組織改編について説明があり、審議の結果、案(資料3-1及び資料3-2)のとおり了承された。

5) 国立天文台建物の廃止について

徳田委員から、資料4に基づき、国立天文台建物の廃止について説明があり、審議の結果、案(資料4)のとおり了承された。

(主な意見等は以下のとおり)

- 本協議会において審議する資産の処分に関する基準について、見直しを検討していただきたい。

6) 機構における役職員給与等の改定について

徳田委員から、資料5-1及び資料5-2に基づき、機構における役職員給与等の改定について説明があり、審議の結果、案(資料5-1)のとおり了承された。

(主な意見等は以下のとおり)

- 今回の改定により、機構全体でどのくらいの人件費増となるのか。
- 人件費が増額となっても、新たに予算措置がされるわけではなく、配分された運営費交付金の中で対応していくこととなる。今回の改定について試算した結果、約4千万円の増加となる見込みである。

7) 特別栄誉教授の称号授与について

小森議長から、資料6に基づき、特別栄誉教授の称号授与について報告があった。

8) 平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果(原案)について

金子委員から、資料7に基づき、平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果(原案)について報告があった。

(主な意見等は以下のとおり)

- URAのキャリアパスの確立に加え、大学共同利用機関法人として我が国の大学におけるURAの全国的なハブとして活躍していることも特記事項として記述すべきである。
- 全国的という点については特記事項として記述していない。今後は、アピール度の高い記述にしていきたい。
- 記述する際に、特にアピールする点などアクセントをつけないといけないのではないか。
- 記述方法について見直すように、機構内に徹底を図っているところである。

9) 平成28年度自己点検・自己評価、外部評価について

林委員、室賀核融合科学研究所副所長、山本委員、井本委員及び川合委員から、資料8-1から資料8-5に基づき、各機関の平成28年度自己点検・自己評価、外部評価について報告があった。

10) TMT計画の状況について

林委員から、資料9に基づき、TMT計画の状況について報告があった。

(主な意見等は以下のとおり)

- 欧州南天天文台の進行状況が気になっていると思うが、どのような状況か。
- 3年前に土地資源委員会がTMTに対して公聴会を経た上で、許可する旨の暫定許可を出したが、これはハワイ州にもTMT計画を早く進めないといけないという焦りから出した許可であったと考える。しかし、これは意見を聴く前に結論を出しているものであり、結果として許可が取り消された。今回は、今後の状況も見ながら、気をつけて進めていかなければならないと考えている。欧州南天天文台の望遠鏡は、2027年に完成予定であり、とりあえず2024年に一部の鏡でファーストライトする予定と聞いている。

11) 平成28年度決算の承認について

徳田委員から、資料10-1及び資料10-2に基づき、平成28年度決算の承認について報告があった。

12) 平成30年度概算要求について

徳田委員から、資料11に基づき、平成30年度概算要求について報告があった。

13) 研究大学コンソーシアムについて

金子委員から、資料12に基づき、研究大学コンソーシアムについて報告があった。

(主な意見等は以下のとおり)

- 地方大学が疲弊していると言われているが、地方大学をサポートしていくということは、このコンソーシアムの中で議論されていくのか。
- 地方大学を含めた大学をサポートしていくことは大学共同利用機関のミッションのひとつであり、コンソーシアムでも取り上げていきたいと考えている。

14) 第24回自然科学研究機構シンポジウムについて

事務局から、資料13に基づき、第24回自然科学研究機構シンポジウムについて報告があった。

1 5) 機構の最近の研究について

本機構の最近の研究成果について、分子科学研究所の古賀 信康 准教授から「ゼロからのタンパク質分子構造デザイン」と題して発表が行われ、意見交換があった。

以上